

学生による授業評価に関する全国調査

永原 和夫・菅原 良・松岡 審爾・池田 官司

1. はじめに

日本の大学で学生による授業評価が全学的に実施されるようになってから約 20 年が経過し、今ではほとんどの大学で何らかの形で授業評価を取り入れている。北海道文教大学（以下、「本学」と言う。）でも、2002 年後期にはじめて、授業改善のための基礎資料を収集する目的でアンケート形式により学生の授業評価を実施してから、毎年 1 回、前期または後期に開講されるすべての科目を対象に学生による授業評価を全学的に実施し、その集計結果を公表して授業改善に努めているが、必ずしも所期の目的を達成しているとは言えない。学生による授業評価は授業改善のための不可欠な手段であり、これを形骸化し、単なる年中行事の一つにしてはならないのは事実である。しかし、学生による授業評価に関しては、実施方法はもとより、アンケートの評価項目、統計データ集計方法、利活用について有効性が実証されている方法がほとんどなく、各大学が見様見真似で試行錯誤を繰り返している。われわれは、学生の声に着実に授業にフィードバックされる方法を開発する目的で全国の主要大学における学生による授業評価の実態を調査することにした。

2. 研究の目的と調査の実施

本研究は、北海道文教大学教育開発センターが学内共同研究費の配分を受け、本学の学生による授業評価の改善を主たる目的として、全国の主要大学を対象にアンケート調査を行うことによって、学生による授業評価の実施回数、対象科目、回収方法、集計方法、利活用の状況について実状を明らかにし、評価項目についてはすべての大学・学部に通ずるユニバーサルモデルを提案することにある。

本調査は、2010 年 9 月から 10 月にかけて、全国の 135 大学（すべての国立大学含む）に「学生による授業評価に関するアンケート」を郵送し、アンケート用紙の返送とともに最近の「授業評価報告書」の提出を求め、95 大学（資料 1 参照）から回答を得た。回収率は 70.4%である。なお、国立大学以外の公立・私立大学には、山形大学高等教育研究企画センターが主宰する FD ネットワーク・グループ、「つばさ」に参加する大学と北海道のすべての大学が含まれる。

3. 調査結果の概要

3-1. 実施回数について

学生による授業評価を実施するには相当の経費と労力がかかる。本学では、前述のように、2002 年後期に学生による授業評価を開始して以来、前期または後期開講になる全科目について年に 1 回授業評価を実施している。その理由はかなりの労力と費用を投じて集計結果を公表するまでに最低 3 カ月、場合によると 4 カ月もかかってしまうのと、授業の内容と方法を改善するにはそれなりの時間が必要であるから、前・後期完全ターム制を採用している本学の場合、隔年制で実施しても 2 年に 1

度は開設科目すべてについて学生の授業評価が受けられるので、決定的な支障にならないと判断したからである。

しかし、実施回数に関するアンケート調査の結果によると、図1に見られるように、全回答数95大学のうち実に73.7%の大学が前期と後期に1回ずつ1年に2回、学生による授業評価を実施しており、遅滞なく評価結果を集計分析して担当教員にフィードバックする体制を整えていることが窺われる。

更に、「その他」と答えた20.0%の大学の中には、学期の中間にも学生による授業評価を行い、年に4回実施していると答えた大学が複数含まれている。これらの授業評価は、学期の中間に教員が出欠票代わりに授業の感想を書かせるのと同じもので、指導の途中において、そこまでの授業成果を把握し、その後の学習を促すために行われる形成的評価であって、授業中に実施・回収されるのが大部分で、大学全体としての集計は行われていないものと思われる（資料2参照）。

いずれにしても、実施回数だけを見ても、学生による授業評価は、どんなに財政的負担がかかろうと、授業改善のために不可欠であると大多数の大学が判断していると言える。

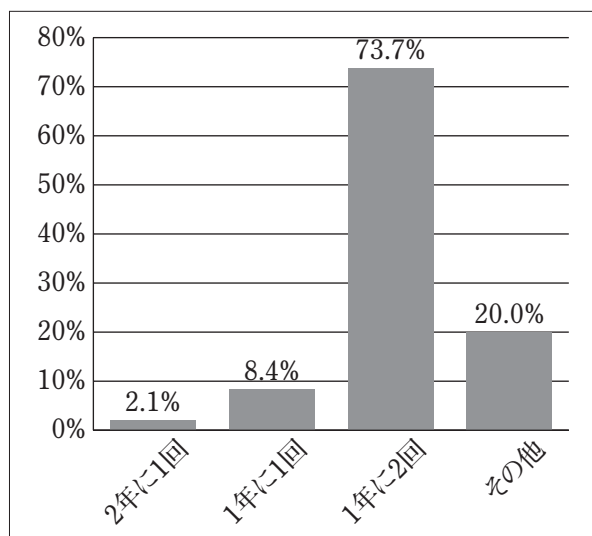


図1 実施回数

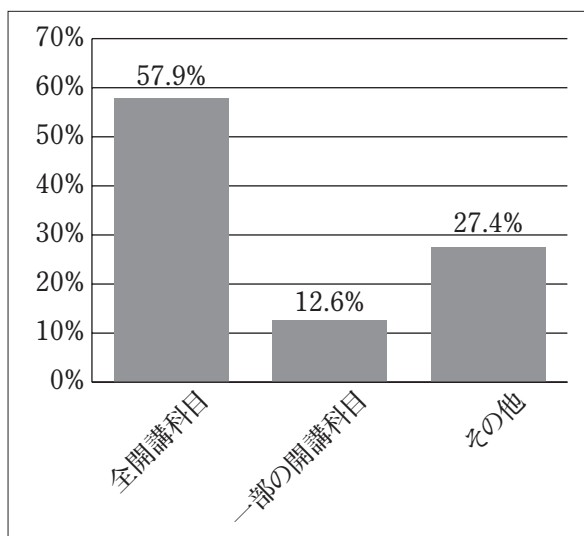


図2 実施対象

3-2. 実施対象について

学生による授業評価の対象は、図2に見られるように、全体の57.9%の大学が全開講科目と答えている。授業評価の実施対象は総合大学と単科大学とでは事情が全く異なり、また、学部間でも意見の相違があってもおかしくない。そのような違いがあったとしても、教養科目等の全学共通科目は、ほとんどの大学で学生による授業評価の対象としているようである。

対象科目を指定しても、受講生が余りに少ない場合、集計処理上、統計的に意味がなくなるので、除外条項を設けている大学が多く見られる。授業評価を実施する際の最低受講人数は、大学によって異なるが、10名から20名程度である。また、教員と学生との特別な関係等に配慮してか、卒業研究を含め、実技や実習などの科目は、一般的な授業評価になじまないとする学部もある。

3-3. アンケート項目について

本学では、学生による授業評価を始めた当初は、アメリカの大学の例に倣って、全開講科目を授業

形態（講義と演習）に分けて、学生と教員そして全体にわたる 39 項目について 5 段階評価で回答を求めていた。しかし、集計分析が煩雑になると、アンケート項目が多くなると学生の集中力が低下する傾向があるので、2007 年度から現行の 1 形式 19 項目と自由記述事項に改めた。今回の調査に掲げた表 1 のアンケート項目は、現在、本学が学生による授業評価に用いているものをベースに若干修正を加えたものである。

表 1 アンケート項目

質問番号	質問項目
1	シラバスの記載内容と授業実態との適合性
2	授業の目的や到達目標についての確認
3	成績評価基準と評価方法についての説明・確認
4	教師の授業準備
5	教師の話し方（マイクの使い方を含む）の適切性
6	黒板等の使い方の適切性
7	教材（テキスト、プリントなど）の使い方の適切性
8	OHP、ビデオ、コンピュータなど視聴覚機器の使い方の適切性
9	授業の理解度を高める配慮
10	授業の関心を高める工夫
11	授業中の雰囲気を学習に適した状態に保つための努力
12	学生の質問に対する教師の対応の適切性
13	教室外での学習等に関する指示・助言の適切性
14	この授業における学生の参加度
15	この授業における学生の充実度・満足度
16	自由記述欄の有無
17	その他

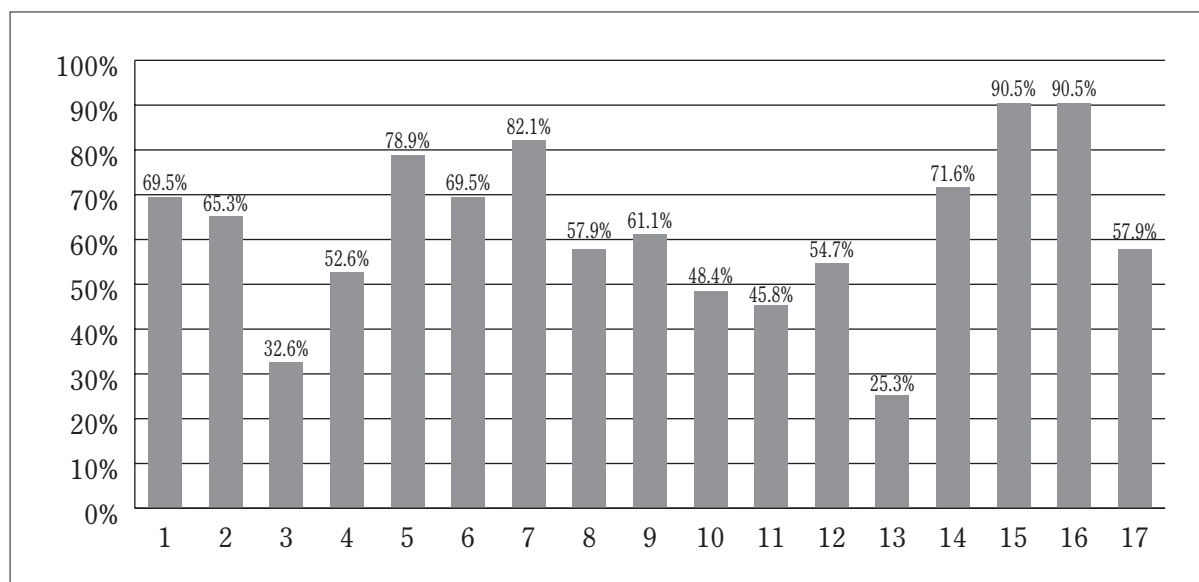


図 3 アンケート項目（横軸の番号は表 1 の質問番号に対応する）

調査結果は図 3 の通りである。「3. 成績評価基準と評価方法についての説明・確認」と「13. 教室外での学習等に関する指示・助言の適切性」を質問項目に入れている大学は 35%を切るが、それ

以外の項目はすべて45%を超える高い比率を占めており、特に、「15. この授業における学生の充実度・満足度」と「16. 自由記述欄の有無」は90%に達している。しかし、57.9%の大学が「17. その他」の項で、それぞれの教育目的、授業形態に基づき実に多種多様な質問項目を用意しているのが分かる。全般的な傾向として、上位の研究大学では授業の内容と達成度に関して細かく訊ねており、一般的な教育大学では学生の受講態度に関する質問が多く、授業方法については両者とも共通した項目について質問しているといえる。授業評価アンケートの質問項目はおおむね20が上限のようである。

このような結果をもとにわれわれは、文部科学省高等教育局が全国の国公私立大学747大学を対象に調査した「学生による授業評価における評価項目」に関する報告（『大学における教育内容等の改革状況について(平成20年度)』⁽¹⁾、および山形大学高等教育研究企画センターが主宰するFDネットワーク・グループ、“つばさ”が使用している評価項目⁽²⁾）を参考に慎重に検討を重ね、以下の15項目と自由記述欄から成る授業評価アンケート項目に関する北海道文教大学モデルを策定した。

表2 学生による授業評価項目に関する北海道文教大学モデル

区分	質問番号	質問項目
あなた自身 のことにつ いて	1	あなたはこの授業にどのくらい出席しましたか
	2	あなたはこの授業のためにどのくらい予習・復習をしましたか
	3	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか
	4	あなたはこの授業の目的や到達目標を明確に理解していますか
	5	あなたはこの授業によって自分の能力を伸ばすことができましたか
授業担当者 のことにつ いて	6	授業内容は理解しやすいように配慮されていますか
	7	授業内容への関心を高めるように工夫されていますか
	8	教材（テキスト、プリントなど）の使い方は適切ですか
	9	黒板、ビデオ、OHPなどの使い方は適切ですか
授業全般に ついて	10	学生の質問に対する教員の対応は適切ですか
	11	シラバスの記載内容は授業の実態に適合していますか
	12	授業はよく準備されていましたか
	13	この授業の難易度はどうですか
	14	授業環境は学習に適した状態に保たれていますか
その他	15	この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか
	16	オプション質問（学科・担当教員から指示があります） 自由記述欄（この授業の良かったこと、改善すべきことなど）

16にオプション質問を設けたのは大学の独自性に対する配慮からである。

3-4. 回収方法について

表3の回収方法に関する質問に対し図4の回答があった。本学では、当初から、授業評価アンケートは「教室で実施し教員が回収して事務局に提出する」方法を採用していたのであるが、アンケートの内容を担当教員に見られるのを気にする学生がいるなどの理由から、2009年度に「教室で実施し学生が事務局に提出する」、自由記述欄は「Webで事務局へ送信する」に改めた。

表3 回収方法に関する質問項目

質問番号	質問項目
1	教室で実施し教員が回収して事務局に提出する
2	教室で実施し学生が事務局に提出する
3	学生が事務局で用紙を受け取り各自事務局に提出する
4	Webで回答しWebで事務局へ送信する
5	その他

アンケート紙の回収方法は、回収率に直接関わる問題であるが、今回の調査からみても、最善策を提示することは難しいように思われる。インターネットを介した授業評価は漸増していくものと考えられるが、回収率を十分に考慮して計画を立てる必要がある。

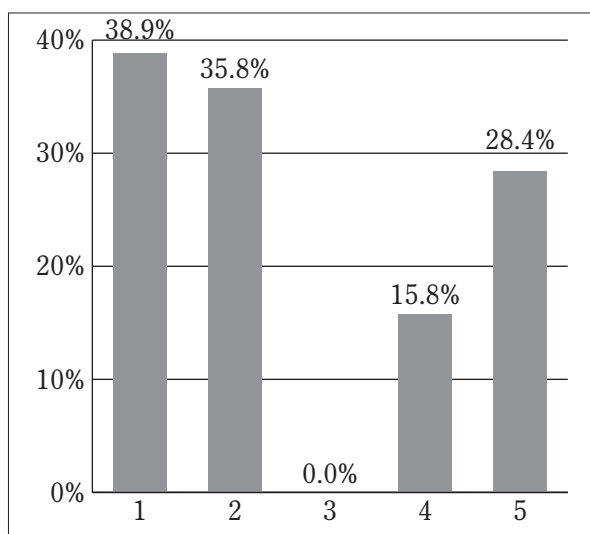


図4 回収方法

(横軸の番号は表3の質問番号に対応する)

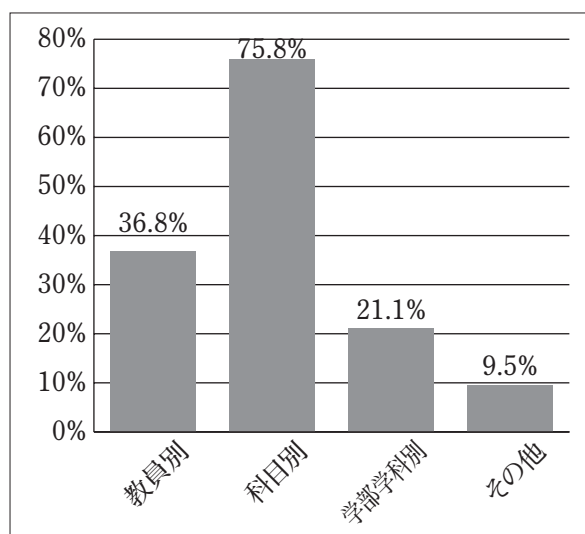


図5 集計方法

3-5. 集計方法について

評価アンケートの集計方法は、「教員別」よりも「科目別」が圧倒的に多く、「学部学科別」に質問項目ごとに平均評価値が算出されているものと推測される(図5)。本学では、回答済みのマークシートを光学式マーク読み取り装置(OMR: Optical Mark Reader)で読み取り、科目別に学科・学部・全学生の集計を行い、自由記述事項は回答内容をそのままデータ入力して科目担当者に紙ベースで報告している。

表4 集計方法に関する質問項目

質問番号	質問項目
1	教員別に集計する
2	科目別に集計する
3	学部学科別に集計する
4	その他

3-6. 利活用の状況について

表5の活用方法に関する質問に対し、図6の回答があった。授業評価アンケートの利活用の状況について、「科目担当者名を付して集計結果を公表している」と回答したのが全体の35.8%、「学科、教科ごとに学生による授業評価を検討し授業改善に努めている」が60.0%、「質問項目間の各種相関係数を算定し教員の利用に供している」が26.3%、「自由記述事項をワープロで起こし、日本語分析ソフトを使い因果関係を明らかにしている」が5.3%、「優秀教員の表彰を実施している」が23.2%、「学生による授業評価が著しく劣る教員の指導・助言を行っている」が15.8%になるが、「その他」と回答した46.3%の大学では授業改善のために様々な工夫が試みられている。

表5 活用方法に関する質問項目

質問番号	質問項目
1	科目担当者名を付して集計結果を公表している
2	学科、教科ごとに学生による授業評価を検討し授業改善に努めている
3	質問項目間の各種相関係数を算定し教員の利用に供している
4	自由記述事項をワープロで起こし、日本語分析ソフトを使い因果関係を明らかにしている
5	優秀教員の表彰を実施している
6	学生による授業評価が著しく劣る教員の指導・助言を行っている
7	その他

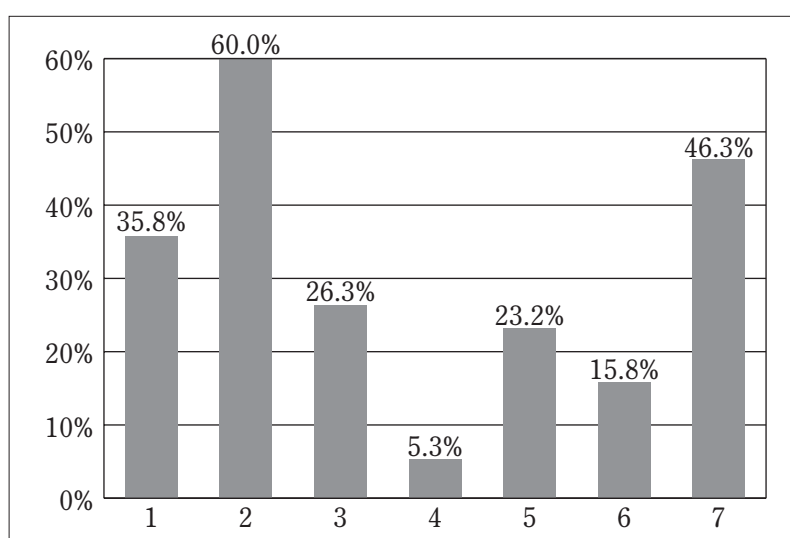


図6 活用方法（横軸の番号は表5の質問番号に対応する）

学生による授業評価は、授業の改善のために行われるものであるから、その結果が担当教員にフィードバックされるのでなければ意味をなさない。科目担当者名を付して集計結果が公表されるのであれば、いやでも改善のための努力をせざるを得なくなろう。その際に、質問間の相関係数であるとか自由記述事項の因果関係などの分析が提供されれば、より客観性の高い具体的な改善計画が立てられる。

今回の調査結果は、授業改善が個々の教員の自己努力から教員同士の相互評価へ学科あるいは教科グループを単位とする組織的な取組みに変わりつつあること示している。授業評価アンケートの結果を教員の表彰や指導・助言に活用する大学が増える傾向が見られるが、これらは継続的な授業改善行動計画の一環として位置づけられるのでなければ、教員の勤務評定につながる危険がある。

4. 考察

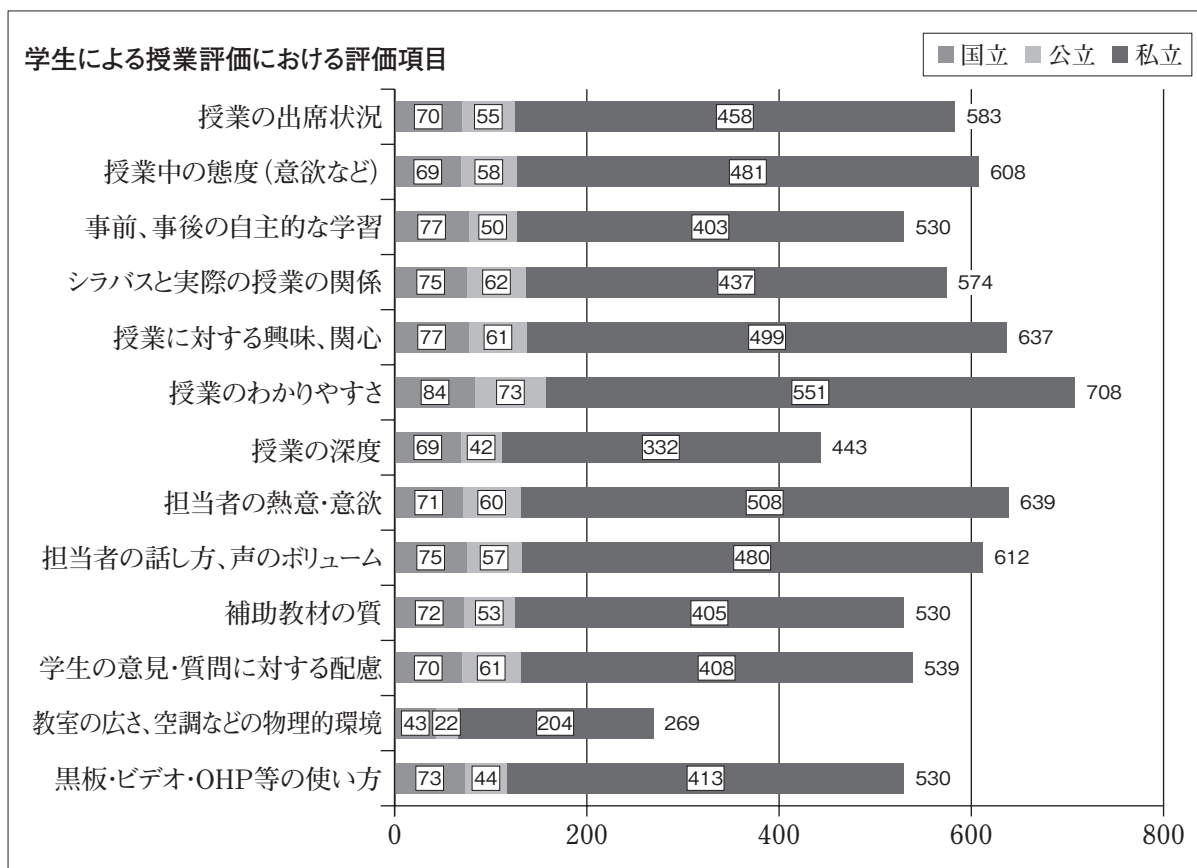
2009年現在、わが国の597大学（国公私立全体の約80%）において、全学的な学生による授業評価が実施されている。授業評価研究に統計学的手法が取り入れられ、これまで経験と勘に頼っていた授業改善が科学的根拠に基づくものとなり、大学・専門学校向けの授業評価ビジネス（例えば、株式会社DCI）まで誕生するようになった。

しかし、授業評価の本家であるアメリカと比較する場合、日本ではじめて国際基督教大学が全学的な学生による授業評価を導入した1988年から数えてもようやく20年を経過したに過ぎず、その間、文部科学省の指導により、実施大学数は急増したとはいえ、質問項目の研究はもとより、取得したデータの統計分析の手法、その利活用の方法についても格段の差がある。

今回、われわれが行った調査研究によって日本の大学における学生による授業評価の実態が明らかになり、評価項目についてはすべての大学・学部で使用可能な北海道文教大学モデルを提案することができた。今後とも、大学間の情報を活性化し、学生による授業評価方法の精度を高め、授業改善のための手段として真に信頼できるものにするように努めなければならない。

—注—

(1) <学生による授業評価実施状況>



文部科学省高等教育局、『大学における教育内容等の改革状況について（平成20年度）』（平成22年5月26日）、p.21.

(2) 山形大学のFDネットワーク“つばさ” (<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsubasa/>) には、

現在、東北・北海道を中心に 42 の大学・短期大学が参加し、次に掲げる共通フォーマットによる授業評価を行っている。

◎この授業の全般的な点について教えてください。
質問 1 ¹ この授業を履修した動機を強い順に 3 つ選択してください。
質問 2 ² (あなたは) この授業を何回欠席しましたか。
質問 3 ³ この授業を意欲的に受講しましたか。
質問 4 内容を理解できましたか。
質問 5 考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか。
質問 6 シラバスに授業の目標や授業計画は具体的に示されていましたか。
質問 7 シラバスに成績評価基準と評価方法は具体的に示されていましたか。
質問 8 教員に熱意は感じられましたか。
質問 9 教え方(教授法)はわかりやすかったですか。
質問 10 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。
質問 11 授業はよく準備されていましたか。
質問 12 教員の話し方は聞き取りやすかったですか。
質問 13 板書や配布物、掲示資料は読みやすかったですか。
質問 14 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。
質問 15 オプション(授業担当教員から指示があります)
質問 16 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。

注 1. 「第一理由」「第二理由」「第三理由」を下記から一つずつ選択する。

- ①この授業に関心があったから ②単位が取り易そうだから ③教員に魅力があったから
 ④友達が多く履修しているから ⑤自分の専門に関係が深い分野だから ⑥幅広い教養を身につけるため
 ⑦先輩に薦められたから ⑧他の授業で断れて仕方なく ⑨必修だから ⑩その他

注 2. 「0 回」「1 回」「2 回」「3 回」「4 回以上」から一つを選択する。

注 3. 以下の質問には次の 5 段階で答える。「5: はい」「4: まあそうである」「3: どちらとも言えない」「2: あまりそうとは言えない」「1: いいえ」

◎以下は自由記述欄です。思ったことを書いてください。
質問 17 この授業で良かったと思う点を書いてください。
質問 18 この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を書いてください。
質問 19 オプション(授業担当教員から指示があります)

—資料—

(資料 1) 回答大学一覧

旭川医科大学	横浜国立大学	島根大学	青森県立保健大学
小樽商科大学	上越教育大学	岡山大学	山形県立保健医療大学
北見工業大学	新潟大学	広島大学	会津大学
北海道大学	信州大学	山口大学	青森中央学院大学
北海道教育大学	富山大学	徳島大学	石巻専修大学
室蘭工業大学	北陸先端科学技術大学院大学	鳴門教育大学	東北生活文化大学
弘前大学	金沢大学	香川大学	東北文教大学
岩手大学	福井大学	愛媛大学	公立ほこだて未来大学

東北大学	岐阜大学	福岡教育大学	札幌医科大学
宮城教育大学	静岡大学	佐賀大学	旭川大学
秋田大学	愛知教育大学	長崎大学	札幌国際大学
山形大学	豊橋技術科学大学	熊本大学	天使大学
福島大学	名古屋大学	鹿児島大学	道都大学
茨城大学	三重大学	鹿屋体育大学	苫小牧駒沢大学
筑波大学	滋賀大学	琉球大学	函館大学
宇都宮大学	滋賀医科大学	筑波技術大学	藤女子大学
埼玉大学	京都工芸繊維大学	茨城県立医療大学	北翔大学
電気通信大学	大阪大学	文教大学	北星学園大学
東京医科歯科大学	大阪教育大学	了徳寺大学	北海商科大学
東京学芸大学	神戸大学	嘉悦大学	北海道医療大学
東京芸術大学	兵庫教育大学	東京女学館大学	北海道工業大学
東京工業大学	奈良教育大学	日本女子大学	北海道薬科大学
東京農工大学	奈良女子大学	神奈川大学	稚内北星学園大学
一橋大学	鳥取大学	関東学院大学	(順不同)

(資料2) 「その他」に記載されたコメントの抜粋

I 実施回数

小樽商科大学	7月に前期開講科目分、1月に通年・後期開講科目について実施
北海道教育大学	1年に4回（前期及び後期において授業期間の中間と期末に各1回実施）
弘前大学	前・後期の学期末の他に、前期・後期とも希望する教員を対象に学期途中にアンケートを実施
岩手大学	平成22年度からは、2年に1回とし、それまでは全科目を対象としていた
秋田大学	1年に4回（前期及び後期の中間と最終回）
筑波大学	1年に3回（3学期制のため）
宇都宮大学	期末アンケートの他、フォローアップとして、中間アンケート（記述式）を実施している
新潟大学	第1学期・第2学期に各1回
北陸先端科学技術大学院大学	本学の常勤の教員が担当している科目について実施している
金沢大学	学期中間2回、学期末2回のアンケートを実施した部局もある。
福井大学	1年に2回（医学部、工学部）、3年に1回（共通教育）、H17・H22実施（教育地域科学部）
静岡大学	学期毎に中間・最終を1回ずつ実施。ただし、中間については来年度より廃止し、随時実施可能なコメントペーパーを導入予定
鳥取大学	平成22年度より、前期及び後期の中間期（集計はしない）並びに学期末に各1回行い、1年間に4回実施
福岡教育大学	1年に4回
熊本大学	全学の最低実施基準として3年間で1回の実施を定め、各部局においては、それ以上の実施基準を定めてアンケートを実施している
神奈川大学	全科目実施は隔年で1年に2回、初年次教育科目「FYS（ファースト・イヤー・セミナー）」は毎年1回実施
石巻専修大学	学部学生に対して、3年に1回

北翔大学	前・後期で終了する科目で教員に希望する1科目を調査し実施（複数科目可）。希望する科目がない場合は、履修登録者数の最も多い1科目を指定し実施
北海道医療大学	前期・後期に分け、最終講義で実施
北海道薬科大学	前期・後期（中間・最終）計4回
稚内北星学園大学	7月に前期開講科目分、1月に通年・後期開講科目について実施

II 実施対象

旭川医科大学	講義に対する授業評価・・・講師以上（授業のコーディネーターをする場合、助教も含める）
北海道大学	担当の授業（講義・演習）のうち、少なくとも1年間にひとつの授業について実施
北海道教育大学	教員担当科目のうち1科目（各学期の中間及び期末に実施する科目は同一科目とする。）
弘前大学	卒業研究・臨地臨床実習科目・履修者5名以下の授業科目を除いた全開講科目
茨城大学	専門演習が受講者数10名未満の科目を除く
埼玉大学	履修登録者6人以上の科目
東京学芸大学	原則全科目ですが、次の科目は除外しています。1. 教育実習及びそれに類似する科目、2. 卒業研究、3. 教室等（教員の所属組織）が担当している科目、4. 履修予定者が10名未満の科目
東京工業大学	基本的に学部全開講科目（学部によっては、実験、実習、非常勤講師担当科目等は除く）、大学院開講科目は、一部の研究科で実施
東京農工大学	1. 通常科目（原則として年間で各教員学部1科目、学府（大学院）1科目。複数講義を受け持つ場合は受講者数が最多の科目）、2. 全ての複数教員担当科目
一橋大学	学士課程授業科目のうち、ゼミナール及び受講者数が20名未満の科目を除くすべての授業科目
横浜国立大学	教養科目：全科目、専門教育科目：常勤教員担当科目（ただし、ゼミ、教育実習、大学院開講科目を除く。工学部のみは非常勤教員担当科目も実施）
福井大学	全開講科目（医学部）、H22年度前期は講義科目、後期は実験・演習科目について（教育地域科学部）、1教官1年で最低1科目（工学部）、前期授業における開講科目（各課程・学科で開講されている専門教育科目の一部を、他課程・学科の学生のために共通教育科目として開放している科目を除く）（共通教育）
静岡大学	実験、実習、実技、卒業研究及び10名未満の科目は除く
愛知教育大学	年度により実施の対象となる授業を科目区分ごとに分けて実施。3年1サイクルで全開講科目のアンケートを実施している。
三重大学	基本は全開講科目としているが、大学院は受講者が10名以上の科目などに絞って行っている
京都工芸繊維大学	集中講義、卒論（卒研）を除く、学部の全開講科目（大学院授業科目は対象外）
兵庫教育大学	3年をひと括りとしている
奈良女子大学	全学共通開講科目及び一部の学部開講科目
鳥取大学	オムニバス方式及び受講生が少人数の科目については、授業担当教員の判断により実施しない場合がある
愛媛大学	1. 全専門科目、2. 任意の専門科目、3. 少人数・集中・非常勤担当クラス以外
熊本大学	全学の最低実施基準として履修登録者数が20名以上の授業科目を対象とし、各部署においてはそれ以上の実施基準を定めてアンケートを実施している
茨城県立医療大学	臨床（地）実習科目を除いた全開講科目
石巻専修大学	少人数の実験等を除く
札幌国際大学	教員1名につき原則として教員所属の学科の開講科目から1科目を選定
藤女子大学	原則として受講生10名以上の全開講科目
北星学園大学	演習科目、実習・実技科目、卒業論文、国際交流科目、集中講義科目、海外研修科目を除く科目

III アンケート項目

小樽商科大学	授業に適した教室環境（人数、広さ、温度など）について
--------	----------------------------

北海道大学	・授業で要求される作業量（レポート、課題等）の適切さ、・授業内容の難易度、・出席率、・予習・復習に費やした時間
北海道教育大学	授業1回につき、予習・復習は平均何時間行ったか。授業方法は、前回（中間評価）のアンケート以降に改善がみられたか
弘前大学	・学生自身が授業に積極的に取り組み、予習・復習を行ったかについて、・授業の開始・終了時間が守られていたかについて
東北大学	授業を進める速度の適切性について、TAの支援活動の適切性について
宮城教育大学	授業時間外の学習時間
福島大学	1回の講義あたりの平均学習時間、授業を理解するための学生側の取り組み、授業内容の適切性、授業の場の大きさや設備の適切性、講義室の温度設定、受講者数の適切性
東京医科歯科大学	・教材の適切性、・通知なしの休講・遅刻について、・その科目から多くを学べたか、・教員の熱意、・学生の自主性を促す配慮
横浜国立大学	シラバスの記述のわかりやすさ、授業内容の理解度、授業による考え方、知識、技術の向上度
福井大学	・学生自身が授業を受けるにあたっての取組みについて、・この授業によって新しい考えを修得できたか、・説明のわかりやすさについて、・授業に関する時間外学習について、授業内容の理解について、・試験問題の内容の適切性について、・評価方法（レポート等）の適切性について
愛知教育大学	授業の難易度、1回当たりで扱われる授業内容の量、対象授業のための週当たり学習時間（課題・レポートに費やす時間を含む）、教員の授業時間の使いかた
豊橋技術科学大学	出席頻度・学生の予習復習・学生の理解度・授業内容・宿題や課題の量
三重大学	本学が目標とする4つの力（感じる力、考える力、コミュニケーション力、生きる力）を身につけることに関する項目
滋賀大学	欠席回数、授業以外での勉強時間、授業の進度（スピード）、難易度、課題・問題復習の量など
大阪大学	・授業の予習・復習について、・授業内容の難易度について、・授業の分量について、・授業内容に対して興味・関心を持てたか、・Webアンケートの使用・設問内容について、・出席日数、・指導者について、・授業に対する評価、・自己評価等
大阪教育大学	授業の進度、予習・復習の度合い、授業分野への関心度
神戸大学	受講態度、自己学習時間、教師の熱意、授業の進み具合、改善を要する事項、評価に値する事項、教室・施設等の学習環境
兵庫教育大学	授業科目の体系的なまとめ、教員相互の連携、学際的な内容の盛り込みのほか、設備・安全に関することも調査している。また、学生自身の振り返りの機会となるようことを期待して、学生自身の評価に関することも併せて調査している
鳥取大学	・授業担当教員による自由設問（口頭又は書面で自由質問）、・自由記述をWebで実施
広島大学	・授業の難易度について、・授業の進度について、・予習・復習に要した時間について、・授業に真剣に取り組んだかどうかについて
山口大学	学生自身の授業の理解度、学生の出席状況、学生の授業外学習時間
香川大学	各授業に関する勉強（自習）時間について
長崎大学	各学部、科目別等においてそれぞれ追加の共通項目を加えている
熊本大学	難易度・双方向的なやりとり・目標に対する達成度・授業時間外学習時間・有意義度。また、全学共通の質問項目（8項目）の他に各部局で固有の質問項目を設定している
鹿児島大学	・出席状況、・シラバスを読んだかどうか、・意欲的に学んだかどうか、・予習復習の量、・授業内容の水準、・将来役立つかどうか、・授業が時間どおりに行われたか、・教員の熱意、・授業期間中に実施したアンケートの結果がその後の授業に反映されたかどうか
筑波技術大学	教員の熱意、教員との意思疎通など（学生自身の取り組みを尋ねる設問もある）。学生が記入する授業アンケートの他に、教員が記入する教員アンケートがある（教員に担当科目の授業アンケート結果を送付し、これに対する意見・感想や設問への回答を依頼）

嘉悦大学	履修の動機、教員の熱意が感じられたか
東京女子大学	・学生への対応が公正公平であったか、・少人数教育の特色が生かされていたか、・「10の底力」(平成20年度文科省学生支援プログラム選定「卒業成長値を高める『10の底力』」)の2つが伸びるように授業を行っていたか
日本女子大学	学生が授業で扱った分野に関して、知識、新しい考え方、発想が得られたかについて
神奈川大学	シラバスは読んだか、履修理由、出席率、予習復習時間、難易度、学ぶことの楽しさ、新しい視点、他の科目への影響、履修人数、教室環境、授業時間の厳守
石巻専修大学	・この授業の内容に興味をもてましたか、・考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか。
公立ほこだて未来大学	宿題の量が適切であったか、この授業に対して授業外の自習に1週あたりどれぐらいの時間をかけたか
札幌国際大学	教員の熱意はあるか。知識や技能は身についたか
天使大学	臨地実習用授業評価：・オリエンテーションの時期・内容、実習の目的・目標の明確化、・実習環境、指導、指導員との連携など
苫小牧駒沢大学	教場や設備について
北翔大学	・考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか、・教員に熱意は感じられましたか、※昨年度までは本学独自のアンケートを行っていた。本年度はネットワーク”つばさ”のアンケートを使用
北星学園大学	教室の環境(室温、広さ等)、履修登録した理由
北海道薬科大学	・教員の熱意について、・教員の考え方について、・本人の授業内容の理解度について

Ⅳ アンケート回収方法

旭川医科大学	教室で実施し、教室に設置した回収箱により回収
室蘭工業大学	教室で実施し、TA(大学院生)が回収して事務局に提出する。
弘前大学	原則として学生が回収し、回収用封筒を密封させてから教員が事務局に提出する。
宮城教育大学	教室で実施し、回収は学生が行い、それを教員が事務局に提出する
福島大学	複数教員で受け持つ講義については、最終授業担当教員があれば、回収BOXでの回収も行っている。
筑波大学	総合科目(マークシート・TWINS)、その他の共通科目等(TWINS)
宇都宮大学	教室で実施し、学生が回収し封をしたものを教員が提出する
富山大学	教室で実施し、教員または学生が回収し、各学部の担当窓口へ提出
北陸先端科学技術大学院大学	教室で実施し、教員、学生又は事務職員が回収する(何れが回収するかは、科目の担当教員の判断による)。ただし、自由記述はWebで回答する。
大阪大学	一部部局では、教室で実施するかWebへ掲載して教員が回答を集計して事務局へ提出いただいている
兵庫教育大学	教員が調査票を学生に配布し、学生の代表者が回収して封筒に入れ、その場で封をする。それを教員が事務局に提出する
愛媛大学	1. 中間評価：教室で実施、教員が回収、期末評価：教室で実施し学生が事務局へ提出する。教員が教室で実施し、回収の結果についてコメントを付けて年度末に「授業評価報告書」を作成し、教務委員会に提出。最終的にWeb公開
茨城県立医療大学	当該科目に直接的関与のない教員によって、教室で実施及び回収後、教育推進室に提出される
了徳寺大学	教室で実施し、職員が回収する
嘉悦大学	教室で実施し、教員が回収するが、事務局への提出は教員が指名した受講生が行う
日本女子大学	教室で実施し、学生が回収して教員が事務局に提出する
神奈川大学	教室で実施し、学生が回収して教員とともに事務局に提出する
東北文教大学	1. マークシートについては教室で実施し学生が事務局に提出する、2. 自由記述についてはマークシートと同様に実施し教員に提出
旭川大学	教室で実施し事務局員が回収する。

札幌国際大学	教室で教員が実施し、事務局が教室に回収しに行く。
公立はこだて未来大学	Web で回答し Web で評価委員会担当者（教員）に提出する
道都大学	職員が教室で実施し回収する
稚内北星学園大学	教室で実施し、教室に設置した回収箱により回収

V アンケート集計方法

旭川医科大学	教員別の授業評価と科目別の授業評価の2種類があるため、1と2の両方に該当する
東京学芸大学	科目区分別（教育基礎、教養・共通・専攻）
富山大学	科目別、学部別および大学全体の集計を行う
福井大学	個々の科目ではなく、科目群として集計
大阪大学	授業担当教室別
筑波技術大学	科目別に集計した後、学部学科別に統計処理する
神奈川大学	科目属性別に集計する
北翔大学	データがあるため、必要に応じて各種集計を行う予定（本年度分）

VI アンケートの活用状況

旭川医科大学	結果を教員に配布し、授業中に学生へフィードバックすることにより、以降の授業改善に役立てている。また、広報誌に結果を掲載し、翌年度の企画改善に役立てている。
小樽商科大学	1. 集計結果を科目担当者にフィードバックし授業改善に努めている。2. 集計結果と分析を「FD 活動報告書」に公表している
北海道大学	教員個人へ通知し、授業改善に資すると同時に所属部局等の長にも所属教員の評価結果を送付し組織的な改善を促している。また、成績上位者を「エクセレント・ティーチャーズ」とし、授業の取組・工夫等を公表している
岩手大学	科目区分ごとに集計し、公表している。集計結果は、各科目の担当者に返却している
東北大学	各授業担当教員が自ら授業評価集計結果等を受けて「授業実践記録」を作成することにより、授業改善を行っている。また、その「授業実践記録」は科目群ごとに設置された委員会が確認し、組織としての授業改善に役立てている
福島大学	各科目担当者に集計結果を返し、基本的に授業担当者レベルで授業改善を行っている
筑波大学	科目ごとに学生による授業評価を検討し、授業改善に努めている
宇都宮大学	自由記述をソフトを利用しないが項目ごとに分け、分析し検討結果を公表している
東京学芸大学	授業アンケートに対する本学の趣旨は、あくまで授業担当教員の授業改善を目的としているため、アンケートの結果は各担当教員に示し、概要については学内掲示としてHPに掲載するに留まっております
一橋大学	・希望する教員にローデータを提供し、分析のために利用している、・学生の履修科目選択の参考になるように科目ごとの集計結果を公表している
横浜国立大学	教員個人の授業改善に利用する。教員の業績評価に利用する
富山大学	平成21年度までは各学部等のアンケート項目で授業評価アンケートを実施していたが、今年度からは、全学共通のアンケート項目及び各学部等で調査したいアンケート項目により授業評価アンケートを実施することから、利活用については、全学共通のアンケート項目の集計結果をホームページに掲載予定。また、学部間との比較を行い、授業改善に努める予定としている
福井大学	結果は各教員へ通知する。・各教員へアンケートの結果を送付し、教員にフィードバックに係るアンケート及びリフレクションペーパー（授業改善プラン）を提出してもらい（医学部）。集計結果は冊子体にして教員（文京キャンパス全教員）に配布し、また、各部会（共通教育を円滑に実施するために本学共通教育センターに設置）等において結果をフィードバックさせている。
静岡大学	教員にアンケート結果についての報告書を作成・提出してもらい、学生や教員向けに学内限定でWeb掲載している。報告書の提出率は5割を超えている。

愛知教育大学	科目担当者名を付さずに、全ての集計結果を Web に公開している。また、集計結果は、自由記述の内容と共に、担当教員へフィードバックし、各教員における改善活動に資している。また、集計結果を基に教員による自己評価書の作成を実施し、意識向上に努めている。
三重大学	優秀教員の表彰は一部の部局で行っている。
滋賀医科大学	授業評価結果を教員にフィードバックしている。教員はそれに対して反論・改善策を利バックしている。評価結果を「報告書」としてまとめ教員等に配布している。また、ホームページに公表している。
大阪大学	一部部局では、集計結果を教務委員会で検討し、授業改善に努めたり、科目別ごとに集計結果を公表（科目担当者名なし）、科目別 FD で活用している。
大阪教育大学	集計結果を各担当教員へ提示し、その結果を踏まえた改善方法等をアンケート形式により提出を求めている。
神戸大学	優秀教員の表彰は、全学共通授業科目のみを対象に平成 22 年度から実施
兵庫教育大学	集計結果を授業担当教員にフィードバックして、授業の内容・方法等の改善に活かしている。
奈良女子大学	科目番号を付して集計結果を公表している。
鳥取大学	科目ごとに評価を集計し、授業担当教員に通知及び HP で公表するとともに、所属学部長にも報告して、評価が悪かった教員に対し、所属学部長から FD 研修会等に参加するよう促している。
島根大学	・教員の自主的な授業改善に役立っている。・アンケートの結果を受けて、授業担当教員よりコメント（感想、授業改善等）を入力いただき Web もしくは冊子体にて学生にフィードバックを行っている。
徳島大学	・集計結果を授業教員に通知し、各教員が授業改善に努めることとしている、・FD 委員会の資料
愛媛大学	1. 教員の業績評価、集計結果を担当教員に返し、授業改善にいかしている。2. 授業評価結果を学生及び各講座に公表し、ベストティーチャーの表彰を行っている。3. 実施及び活用は各教員の判断に委ねられている。
長崎大学	部局、科目別の集計結果をウェブで公開。
熊本大学	独自の結果公開システムにより、各授業の結果データ（回答者別・質問項目別数値データの一覧表、各質問項目の回答率・平均・標準偏差・自由記述）、教員からの授業アンケート結果に対するコメント、成績評価結果に関するコメントを授業担当教員・受講者に対して Web 上で公開している（教員のコメントはシステム上で入力）。
鹿児島大学	科目分野ごとにアンケート結果が上位だった授業を、次年度の「授業公開」で推奨科目として公開している。
鹿屋体育大学	FD 報告書を作成し、集計結果及び自由記述についても記載し、学内外へ配布している。
筑波技術大学	学部の委員会が学期ごとにアンケートを集計・分析し、報告書としてまとめている。報告書は学内専用 Web サイトで教職員及び学生の閲覧に供している。
茨城県立医療大学	各科目責任者に、集計結果及び自由記述（ワープロ打ちしたもの）を返却すると共に、数値データと科目名の一覧を学内公表している（本学では、教育改革の一環として、オムニバス科目を増やしているため、科目責任者名を併記しての公表は意味をなさない）。
了徳寺大学	各担当教員がアンケート集計結果に関してリフレクション・ペーパーを作成し学科長⇒学部長⇒学長に提出する。
山形県立保健医療大学	科目代表者より学生に向けたコメントを学内で公表している。
石巻専修大学	・「学生による授業評価アンケート報告書」を作成し、学生に公開している。・「教員の個別の集計結果と自由記述に対する教員の対応」を全担当教員についてまとめて教員に公開し、授業改善等の工夫を共有しようとしている。
東北文教大学	1. 授業改善アンケート集計結果に関するコメントと、2. 自由記述に関するコメントを「教員コメント」として提出し、学生・教職員に閲覧できるように公開している。
藤女子大学	1. 科目担当者名を除き、集計結果を公表している。2. 集計結果及びアンケート（自由記述）に対して、教員から意見・感想等を求め、授業改善等に努めている。

北翔大学	1. 科目担当者を付している報告書（教職員用）と付している報告書（図書館で学生も閲覧できる）を作成。2. 自由記述欄で要望が多かった私語・遅刻対策について後学期よりFD活動目標として取り組む。3. 前学期のアンケートで自由記述欄の記載のある用紙のコピーを後学期の授業改善に活用してもらうよう教員に配布。
北海道医療大学	公表に際しては事前に調査し、氏名の公表を「否」とする場合、非承諾者として教員名、授業名を公表した。
酪農学園大学	結果を教員に配布し、授業中に学生へフィードバックすることにより、以降の授業改善に役立っている。また、広報誌に結果を掲載し、翌年度の企画改善に役立っている。

A Questionnaire Survey of Course Evaluation Conducted in Japanese Universities

NAGAHARA Kazuo, SUGAWARA Ryo, MATSUOKA Shinji and IKEDA Hiroshi

Abstract : A Questionnaire Survey of Course Evaluation (hereinafter shortened to CE) was done September to October 2010 to 135 Japanese universities, and 95 answers (70.4%) were collected. The questionnaire consists of ① Frequency of CE, ② Object of CE, ③ Form of CE, ④ Collection of the answer sheets, ⑤ Data processing, and ⑥ Exploitation of CE data. Through our research the actual state of CE in Japan has become clear, and we have proposed a universal form of CE available in any university. We hope this research will initiate further study of CE.